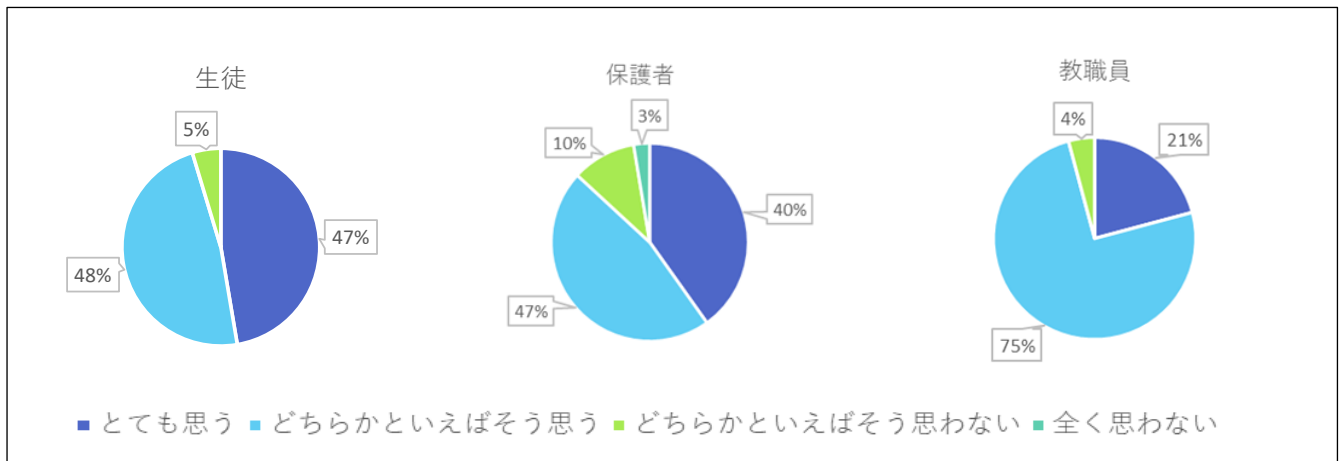


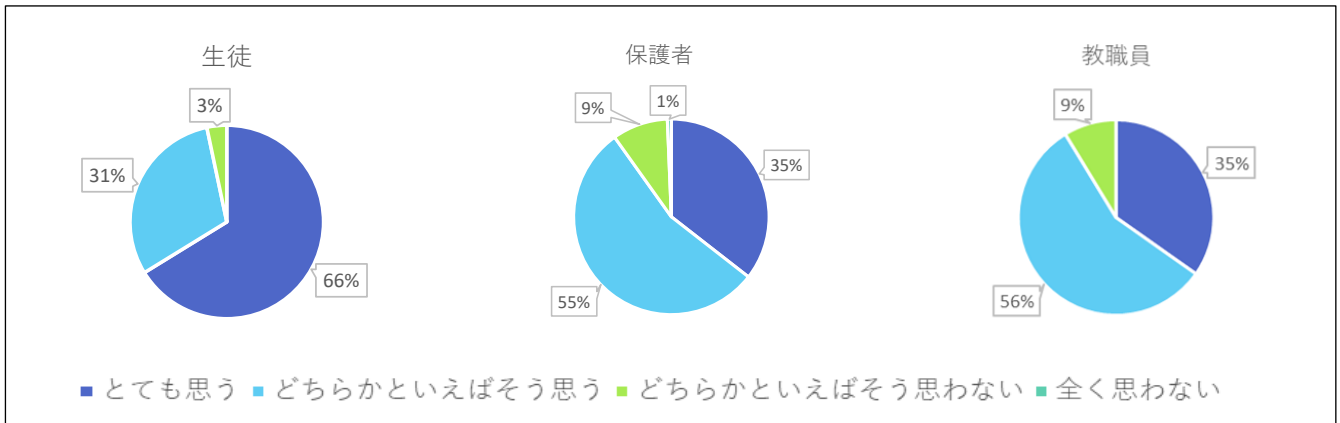
1 子どもは安定した心で登校し、目標をもって充実した生活を送っている。



生徒・保護者・教職員ともに、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高く、昨年度と同様、満足度が高い結果になった。

今後も、保護者が安心して送り出せる学校、生徒にとって目標をもって充実した生活が送れるよう環境を整えていく。

2 子どもは、交通安全を守って自転車に乗っており、家庭・学校でも交通安全を話題にしている。

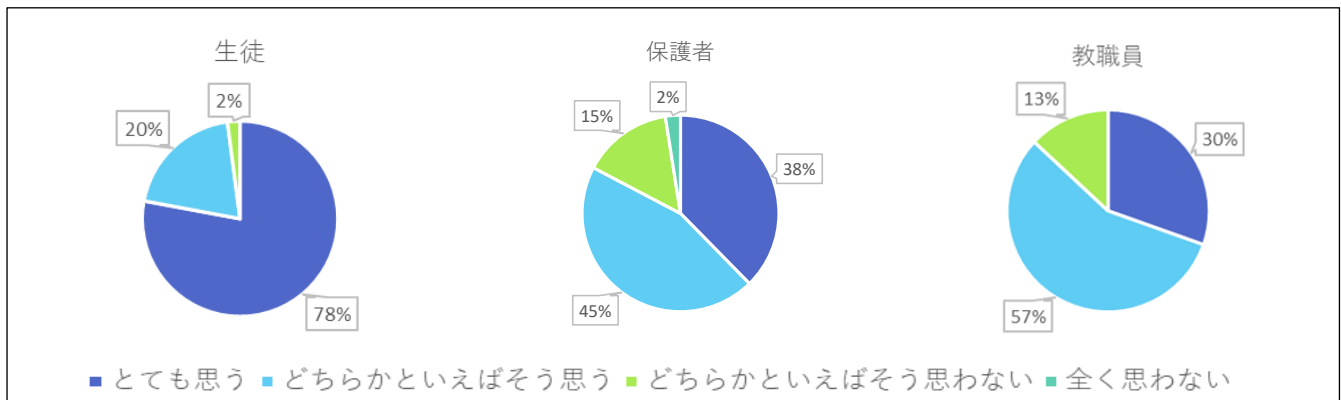


保護者・教職員は、子どもの安全な登下校を望み、継続して声かけをしていることが分かる。一方、保護者・教職員の約2倍の生徒が、自分自身の自転車の乗り方に自信をもっている。

あいさつ運動や「0のつく日」の交通安全指導も活かしながら、一旦停止、左側一列走行、ヘルメット着用、適切なあごひもの長さを意識させたい。

3 子どもは、タブレットやその他のICT機器を正しく活用している。

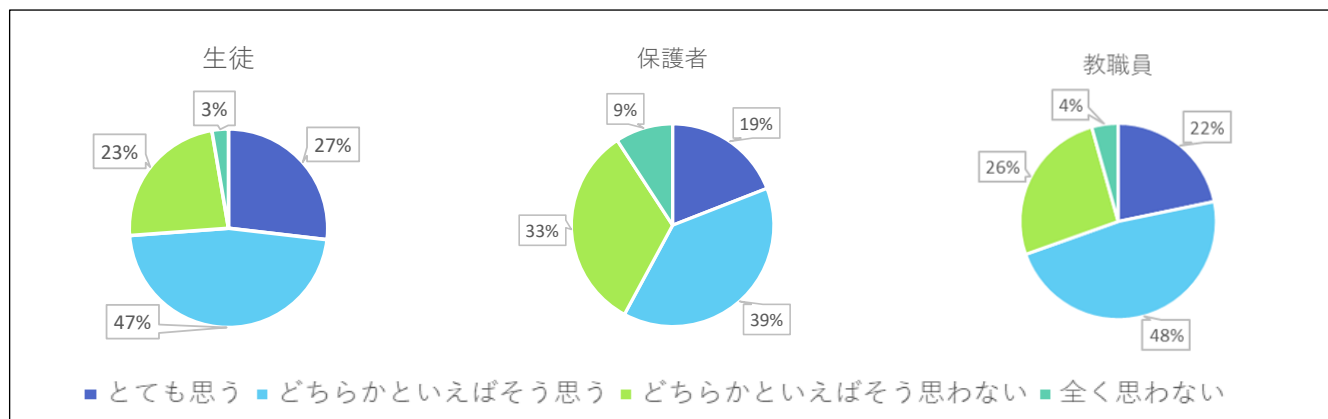
(教職員：生徒に情報モラルを意識させながら、授業や課題提出にICT機器を効果的に活用している)



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、生徒は9割、保護者・教職員は8割を超えている。一人一台端末の導入から年月を経て、日常生活に浸透していることが分かる。

授業や課題提出でタブレットを使うときは情報モラルの意識が高いが、スマートフォンやPCなど、個人でICT機器を活用するときの情報モラルや時間の意識を高めさせたい。

4 子どもは、時間を有効に使い、計画的かつ意欲的に家庭学習に取り組んでいる。

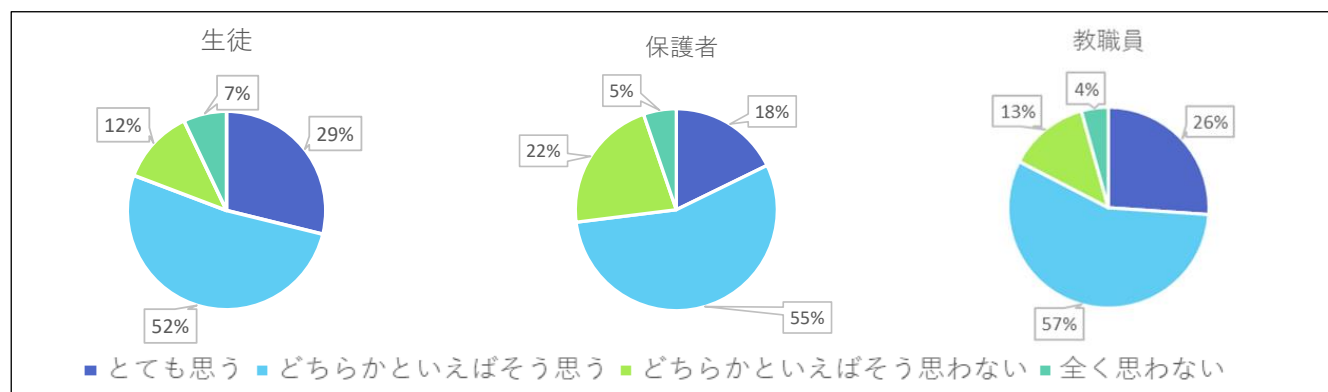


生徒・教職員の割合の数値が似ていることに対し、保護者は「どちらかといえばそう思う」「全く思わない」の割合が高くなっている。

学校からは継続的に課題を出し、実のある家庭学習を支援していく。宿題以外の家庭学習においては、保護者と連携を図りつつ、生徒の自立を促していきたい。

5 子どもは、学校生活を通して自分を見つめたり、将来の生き方・考え方などを意識したりしている。

(教職員：各教科で、キャリア教育を意識した教育活動を行っている)

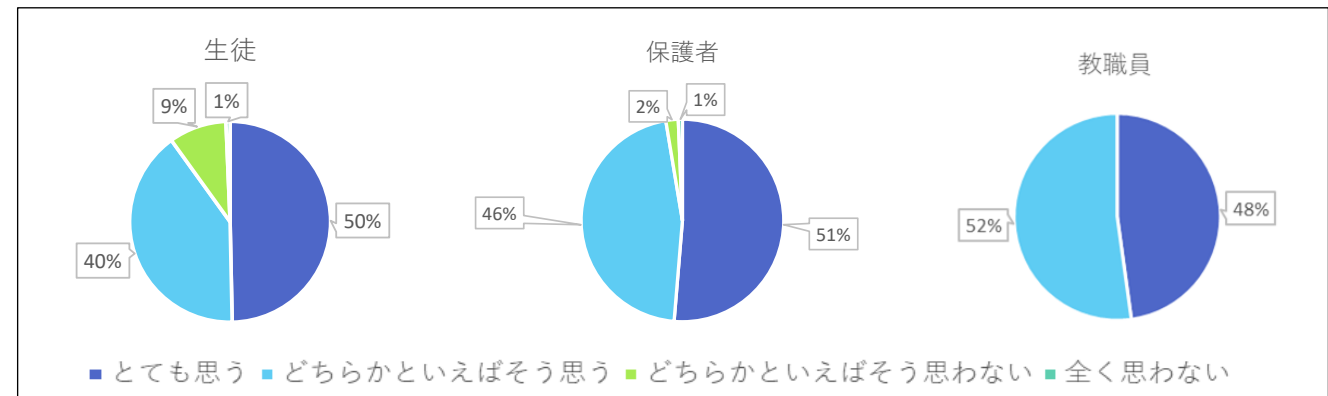


昨年度に比べると、「どちらかといえばそう思わない」の割合が高くなっており、キャリア教育を意識した教育活動を進めていくことが課題となった。

2年生の職場体験活動に加え、各教科においてキャリア教育と関連させた取組を一層進めると同時に、生徒には振り返りの時間を確保し、保護者には活動紹介を行っていく。

6 子どもは、人との関わりや体験活動を豊かな心を育てる機会にしようとしている。

(教職員：人との関わりや体験活動を積極的に取り入れ、豊かな心の育成に努めている)

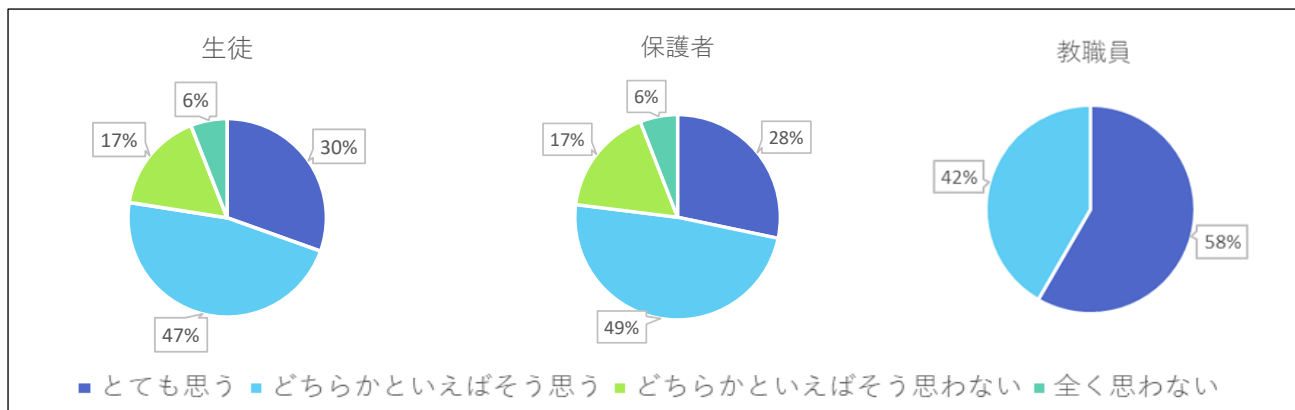


教職員・保護者の肯定意見の割合は大変高く、生徒も「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高い。

体験活動を積極的に取り入れ、体験から得た知識や思考を充実させていくための工夫と、その体験活動から生徒自身が豊かな心が育っている感覚を得られるよう機会を設けていく。

7 相談や悩みについて、相談できる教職員がいる。

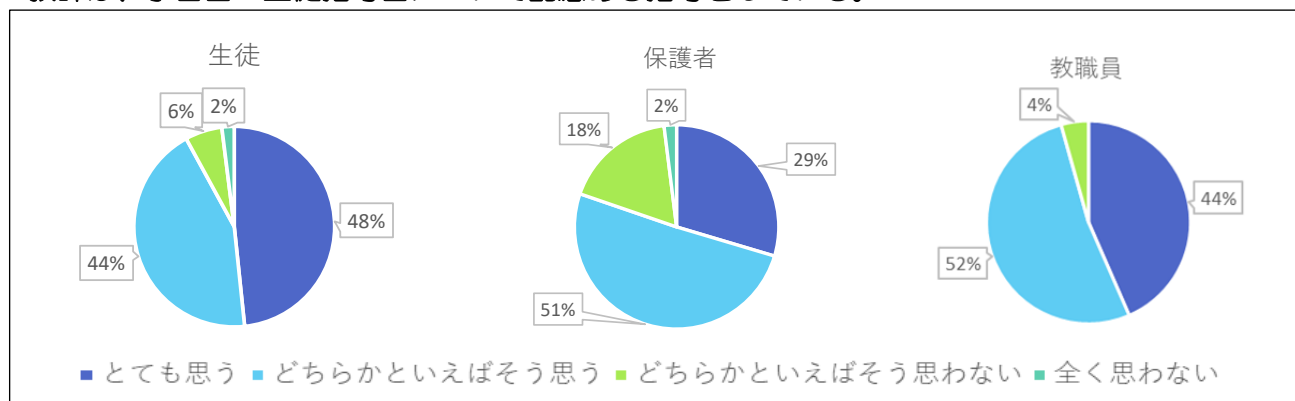
(教職員：悩みを抱える生徒の相談にのったり、保護者と積極的にコミュニケーションを図ったりしている)



教職員が「とても思う」「どちらかといえばそう思う」が10割であるのに対し、生徒・保護者は、「どちらかといえばそう思わない」「全く思わない」が、約2割と同じ割合であった。

教職員の生徒・保護者へのまっすぐな姿勢を一貫させていく。そして、その思いが生徒・保護者に伝わるよう、学校生活のあらゆる場面で寄り添っていきたい。

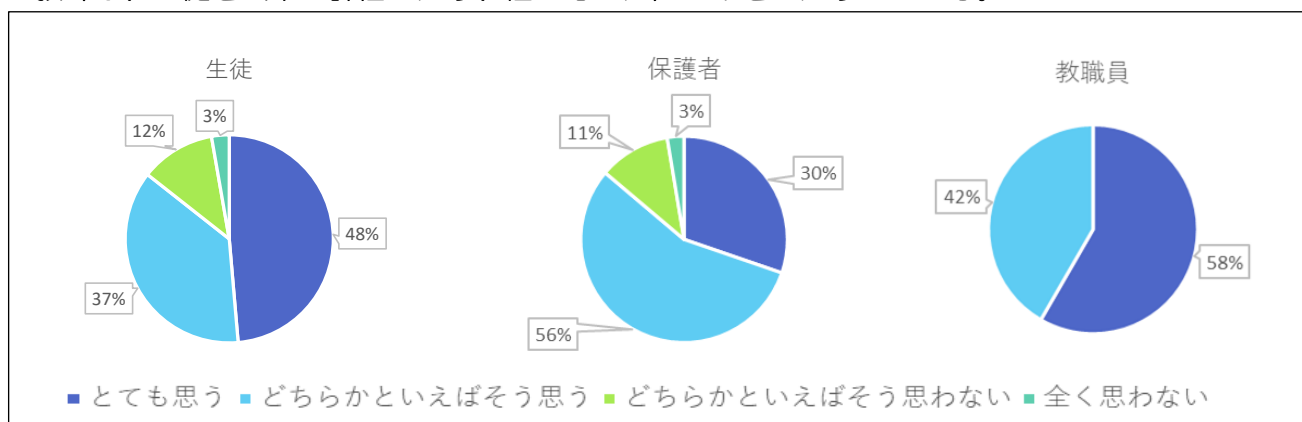
8 教師は、学習面・生徒指導面について配慮ある指導をしている。



生徒・教職員は、「とても思う」の割合が、ほぼ同じである。一方、保護者は、生徒・教職員の半分程度であった。また、「どちらかといえばそう思わない」の割合が約2割と最も高かった。

生徒観察やコミュニケーションを大切にすると同時に、教職員間の情報交換を活発にし、多くの目で配慮ある生徒指導に反映させる。さらに、生活アンケート結果も効果的に活用していく。

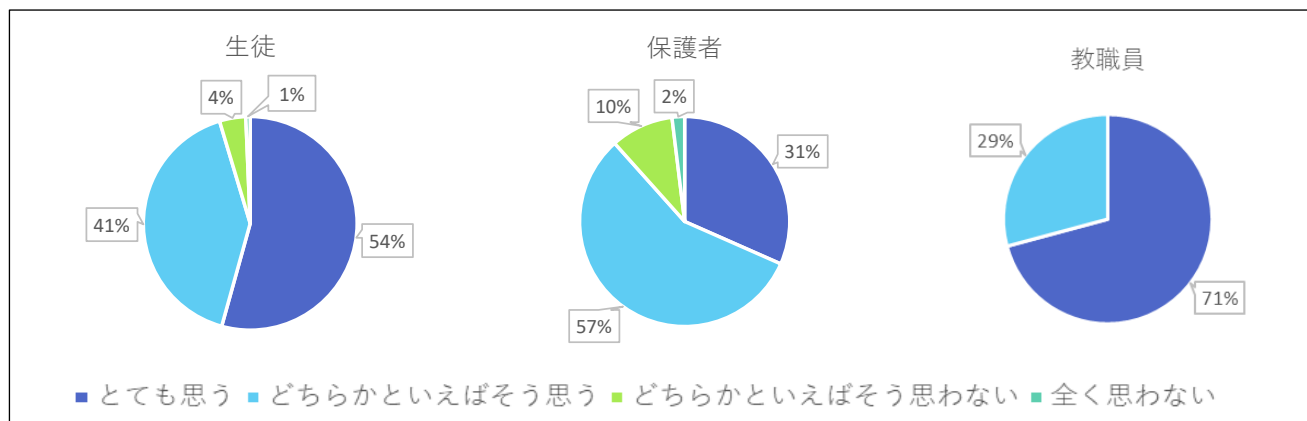
9 教師は、生徒を公平に評価したり、個に応じた声かけをしたりしている。



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、教職員が10割であるのに対し、生徒・保護者の割合は、8割に留まった。

生徒や保護者の受け止め方が違うことを理解したうえで、「公平」「個」を重んじ、保護者にとって子どもを安心して通わせられる学校、生徒にとって通いたい学校づくりを目指していく。

10 学校は、いじめのない学校（学級）づくりに努めている。

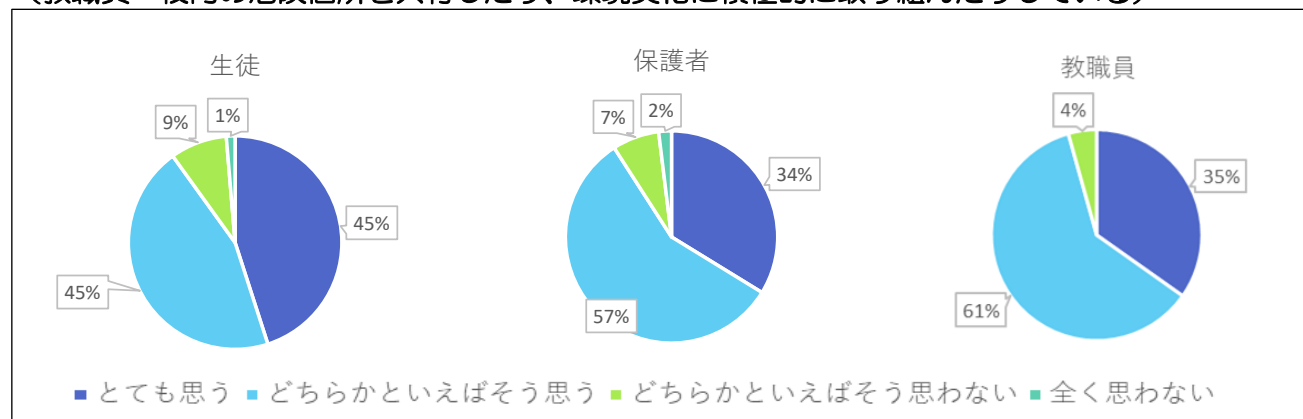


教職員は「とても思う」「どちらかといえばそう思う」が10割であった。生徒・保護者も8割強が、肯定的に捉えていることが分かる。

生徒・保護者の「どちらかといえばそう思う」「全く思わない」の割合がなくなるよう、いじめのない学校（学級）に向けて、全教職員一丸となって生徒のための取組を継続していく。

11 学校は、安全かつ清潔な環境づくりに努めている。

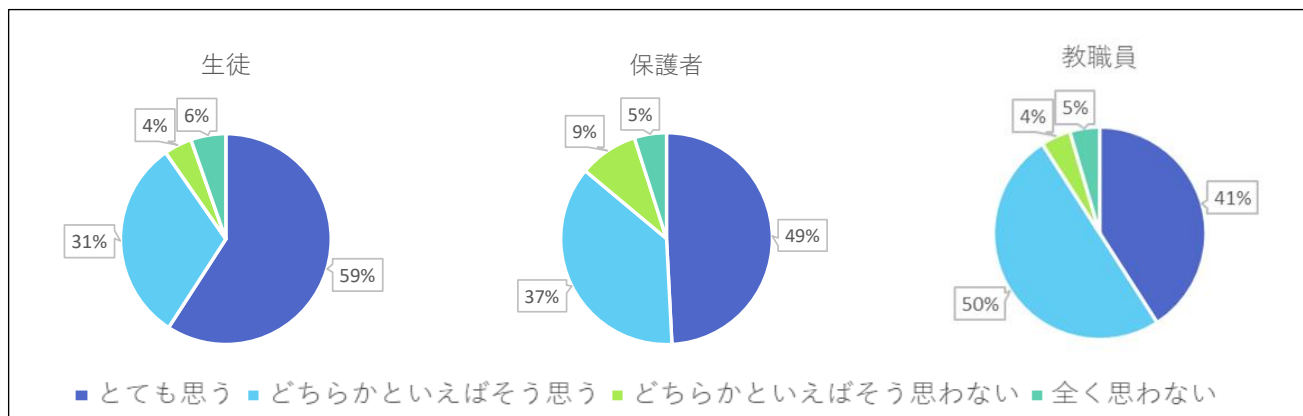
（教職員：校内の危険箇所を共有したり、環境美化に積極的に取り組んだりしている）



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高い。しかし、生徒・保護者・教職員の「どちらかといえばそう思わない」「全く思わない」の割合も昨年と同様であった。

老朽化による故障や雨漏り、自然環境の豊かさがもたらす動物の侵入の問題はあるが、生徒の安全安心を第一に考え、早急に対応する等、今後も学校全体で環境整備を行っていく。

12 部活動は、充実した活動になっている。（教職員：充実した活動になるよう試行錯誤し、実践している）



「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が8割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」「全く思わない」の割合が若干増えている。

部活動の在り方の見直しや生徒数減少は、部活動に影響を及ぼすと考えられるが、活動時間や活動内容を一層工夫し、生徒が限られた中で明確な目標をもって取り組めるよう体制を整えていく。

【結果と考察】

- ・（設問１）「子どもは安定した心で登校し、目標をもって充実した生活を送っている」において、生徒・保護者・教職員ともに、８割以上が高評価だった。（設問６）「子どもは、人との関わりや体験活動を豊かな心を育てる機会にしようとしている」（設問７）「子どもは、学校生活を通して自分を見つめたり、将来の生き方・考え方などを意識したりしている」も高評価ではあるが、「どちらかといえばそう思わない」「全く思わない」と答えた割合も増えた。
このことから、『安定した心』『目標をもって』『充実した生活』のキーワードに対する満足度と『人との関わりや体験活動』『豊かな心』『将来の生き方・考え方』をより密接に関連させた教育活動の内容充実が、生徒・保護者に大きな影響を及ぼすことが分かる。
- ・ 生徒・保護者のアンケート結果と教職員のアンケート結果の差が大きい設問があった。（設問７）「相談や悩みについて、相談できる教職員がいる」（設問８）「教師は、学習面・生徒指導面について配慮ある指導をしている」（設問９）「教師は、生徒を公平に評価したり、個に応じた声かけをしたりしている」（設問１０）「学校は、いじめのない学校（学級）づくりに努めている」において、教職員は「とても思う」「どちらかといえばそう思う」とほぼ１００％である。ところが、生徒・保護者で「どちらかといえばそう思わない」「全く思わない」と答えている割合が、１０～２０％程度いる。このことから、教職員と生徒・保護者とのコミュニケーション不足や情報共有がされていない部分があると考えられる。
- ・（設問２）「子どもは、交通安全を守って自転車に乗っており、家庭・学校でも交通安全を話題にしている」（設問３）「子どもは、タブレットやその他のＩＣＴ機器を正しく活用している」は、生徒と保護者・教職員間で差があった。このことから、命の重み、交通ルール、情報モラルの周知、有効な時間の使い方等、学校と家庭が連携し、継続的かつ地道な指導が必要であると考えられる。

【改善策（今後の取組）】

- ・ アンケート下段に設けた自由記述欄から、生徒・保護者・教職員の思いが伝わった。
生徒は、普段伝えられない思い、「～してほしい」といった願望、そして「～していきたい」という意気込みを記入していた。生徒の思いや意見を尊重し、家庭・学校がこれまで以上に連携を図りながら、生徒一人一人の健やかな成長を支援していく。
保護者からは、学校（教職員）へ感謝の気持ち、そして要望の記入があった。学年だより・保護者メール・ホームページによる情報配信をこまめにしていくと同時に、二者懇談や三者懇談の場を活用したり、個に応じた声かけを日常的に行ったりしながら、双方向のコミュニケーションを継続して図っていく。
教職員は、アンケート結果や自由記述欄を真摯に受け止め、指導方法や授業内容、個々との関わり方を工夫改善し、常に生徒・保護者の伴走者として教育活動を進めていく。
- ・ 家庭の事情、生徒の姿が多様化し、学校が直面する課題も複雑になってきている。これまでの教育のよさを受け継ぎ、立田中学校の校風を大切にしながら対応していきたい。そのためにも、学校は、教職員が心身の健康を損なうことのないよう業務の質的転換を図り、生徒や保護者に接する時間を十分に確保し、総合的・持続的に対応することができる環境を作っていく。